

公立大学法人富山県立大学

平成30年度の業務実績に関する評価

令和元年7月

富山県公立大学法人評価委員会

I 全体評価

(全体としての評価結果)

中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいると認められる。

富山県立大学は、平成2年4月に、日本海側初めての工学系公立大学として開学して以来、教育、研究、地域連携等を積極的に推進し、多くの有為な学生を社会に輩出するなど、地域及び産業の振興に大きな役割を果たしてきている。

一方で、少子化を背景とした大学間競争の激化、グローバル社会への対応など、これまで以上に、教育、研究、地域貢献活動を充実・強化し、地方創生の一翼を担い、県民や地域の期待に応える魅力ある大学づくりを推進していくことが求められている。

こうしたなか、富山県はもとより、日本と世界の学術文化の向上と地域及び産業の振興、社会の発展に寄与することを目的とし、平成27年4月に富山県立大学は公立大学法人富山県立大学(以下「法人」という。)に移行した。

平成30年度は、公立大学法人に移行して4年目となるが、初年度から引き続き、理事長及び学長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を迅速に行える機動的な運営に努め、中期計画で定めた数値目標を見据えながら、活気と魅力あふれる大学づくりに取り組んだ、その業務実績は、全体として高く評価できる。

特に評価する事項として、今後再び顕著となる18歳人口の減少を見据え、大学認知度の向上を図るため、北陸新幹線沿線地域など県内外において、大学説明会の開催や様々な媒体を活用した広報・情報発信、高校訪問、工学部一般入試前期日程における学外試験会場の設置など学生募集活動に積極的に取り組んだ。

また、本年4月の看護学部開設に向け、看護学部の特化したパンフレ

ットの作成、特設ウェブサイトの開設、駅等での広告掲出等PR事業を積極的に実施し、看護学部の初年度の志願者の確保に努めた。

JSTの戦略的創造研究推進事業に採択された「浅野酵素活性分子プロジェクト(ERATO)」は、国の事後評価において最高評価を得て、それらの研究成果を活かして、共同研究に取り組んだ。また、くすりのシリコンバレーTOYAMA創造コンソーシアムにも参画し、最先端の研究を推進したことは、高く評価できる。

さらに、海外大学との学術交流の推進として、昨年8月に第5回富山・バーゼル医薬品研究開発シンポジウムを開催し、富山・バーゼル両地域の医薬品分野における交流を一層推進するとともに、新たに、インドネシア大学及びディポネゴロ大学(インドネシア)の2大学と交流協定を締結するなど国際化に対応する教育環境づくりに積極的に取り組んだ。

そのほか、各学科の多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努め、採択件数は目標値を大きく上回った。また、地域連携センターにおいては、企業との受託研究、共同研究、研究費受入等を支援し、受託研究件数については目標値を大きく上回った。これにより受託研究費等収入が259百万円となり、年度計画の150百万円に比べ109百万円増加するなど、自己収入の獲得に努めた。

今後の課題としては、志願倍率は隔年により変動し、平成29年度を下回った。今後、志願者の増加に向けて大学の認知度向上を図る取組み等について強化していくことが望まれる。また、学生の県内企業就職率の向上も大学の大きな使命であるが、法人化以降、目標値50%以上に達しておらず、県内就職定着に向けた取組みをさらに強化していくことが望まれる。

さらに、現在、射水キャンパスにおいて新棟新築工事、環境工学実験棟移転改築工事を鋭意進めているが、来年4月の供用開始に向けた準備にしっかりと取り組むことが求められる。

昨年5月にセキュリティインシデントが発生し、より強固なセキュリ

ティシシステムの構築及びセキュリティ遵守意識高揚施策などの対策を実施されたところであるが、引き続き、全学的な情報セキュリティ体制の維持に努められたい。

今回の法人の自己評価による業務の見直しと併せて、この委員会の評価結果を法人の業務運営の効率化等のために積極的に活用し、教育研究の一層の充実や地域社会に貢献する大学づくりを推進することで、中期目標が着実に達成されることを期待する。

II 項目別評価

1 教育に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

教育に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された75項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

- ・大学認知度の向上を図るため、様々な媒体を活用した広報・情報発信、高校訪問、工学部一般入試前期日程における学外試験会場の設置など学生募集活動に積極的に取り組んだ。
- ・本年4月の看護学部開設に向け、看護学部の特化したPRを積極的に実施し、看護学部の初年度の志願者の確保に努めた。

(4) 今後の課題とする事項

- ・志願倍率は隔年により変動し、平成29年度を下回った。今後、志願者の増加に向けて大学の認知度向上を図る取組み等について

強化していくことが望まれる。

- ・学生の県内企業就職率の向上については、法人化以降、目標値50%以上に達しておらず、今後、県内就職定着に向けた取組みをさらに強化していくことが望まれる。
- ・射水キャンパスにおいて新棟新築工事、環境工学実験棟移転改築工事を鋭意進めているが、来年4月の供用開始に向けた準備にしっかりと取り組むことが求められる。

2 研究に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

研究に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された29項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、28項目が「III 概ね計画どおりに実施している」と認められ、すべてIVまたはIIIの評価であることや、産業の発展に貢献する研究の推進についての取組みなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

- ・JSTの戦略的創造研究推進事業に採択された「浅野酵素活性分子プロジェクト(ERATO)」は、国の事後評価において、最高評価を得た。
- ・「くすりのシリコンバレーTOYAMA」に採択され、海外トップ人材による講演会やセミナーを開催し、教授陣と学部学生が一体となって研究活動をさらに充実させた。

3 地域貢献に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

地域貢献に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された40項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、39項目が「III 概ね計画どおりに実施している」と認められ、すべてIVまたはIIIの評価であることや、国際化の推進についての取組みなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

- ・昨年8月に第5回富山・バーゼル医薬品研究開発シンポジウムを開催し、富山・バーゼル両地域での医薬品分野における交流を一層推進した。
- ・瀋陽化工大学（中国）等との教育連携を引き続き行うとともに、新たにインドネシア大学とディポネゴロ大学（インドネシア）の2大学と交流協定を締結した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された16項目のうち、すべてが「III 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

本年4月に開設した看護学部について、前倒しで8名の事務局職員を増員したほか、県所管部局と連携し、教育課程（看工連携を含

む) の整備や新入生の受入れ準備を着実に進めた。

5 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 11 項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められたものの、競争的資金の獲得状況や受託研究費等の収入状況、財務諸表、決算報告などを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

- ・各学科の多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努め、採択件数は、目標値を大きく上回った。
- ・地域連携センターにおいては、企業との受託研究、共同研究、研究費受入等を支援し、受託研究件数については目標値を大きく上回り、受託研究費等収入が大幅に増加した。

6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 4 項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、積極的な広報の取り組みなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

ポスターパンフレット等の広報媒体のコンセプトを統一させ、大学の認知度向上を図った。また、看護学部について、重点的にPRするためのパンフレットやウェブサイトを作成するとともに、2学部の情報発信を戦略的に行えるよう大学のホームページのリニューアルを行った。

7 その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

その他の業務運営に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された11項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、10項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 今後の課題とする事項

昨年5月にセキュリティインシデントが発生し、より強固なセキュリティシステムの構築及びセキュリティ遵守意識高揚施策などの対策を実施されたところであるが、引き続き、全学的な情報セキュリティ体制の維持に努められたい。

〈参考1〉 小項目評価の集計結果

大項目	評価等	評価対象 項目数 (小項目)	Ⅳ 計画を上回って 実施している	Ⅲ 概ね計画どおり に実施している	Ⅱ 計画をやや 下回っている	Ⅰ 計画を大幅に 下回っている
第1 教育に関する目標を達成するための措置		75		75		
第2 研究に関する目標を達成するための措置		29	1	28		
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置		40	1	39		
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		16		16		
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		11		11		
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置		4		4		
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置		11	1	10		
合 計		(※)186	3	183	0	0

(※) 再掲の項目を含む。

〈参考2〉 項目別評価の結果

大項目	評価	S 特筆すべき 進捗状況にある	A 計画どおり 進んでいる	B 概ね計画どおり 進んでいる	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項がある
第1 教育に関する目標を達成するための措置			○			
第2 研究に関する目標を達成するための措置		○				
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置		○				
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○			
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		○				
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置			○			
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置			○			

